

4. 取組の状況

【医療施設窓口に掲載しているポスター】



【取組事業を紹介したインターネットサイト】 <http://www.pref.nagasaki.jp/section/kotsu-an/index.html>

県人口 (平成 26 年 3 月 31 日)	交通事故死者数		
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
1,393,159 人	39 人	47 人	49 人
	うち高齢者数 25 人	うち高齢者数 31 人	うち高齢者数 28 人

【本件問い合わせ先】

長崎県
県民生活部交通・地域安全課
095-895-2341

【事例 12】警察署との協力による自転車装着用後方確認ミラー配布事業（千葉県柏市）

高齢者の事故原因として自転車乗車時の安全不確認が多いため、高齢者に自転車装着用ミラーを配布し、安全確認の習慣づけを促進

1. 取組内容

（1）取組の背景と目的

- ・継続的に、高齢者を対象とした交通安全教室を単位老人クラブ等に出向き開催している。そうした中で、予算が確保できた年度には、交通安全教室受講者へ交通安全グッズを配布している。
- ・近年、高齢者の自転車事故が増えてきている。原因として後方の安全確認が不十分である場合が多く、高齢者のほとんどに後方安全確認の意識が根付いておらず、対策が必要だと考えた。そこで、平成 24 年度においては、自転車装着用のミラーを配布することにし、高齢者に後方確認の意識の定着を図ることとした。
- ・現状、自転車走行時の後方確認がほとんど浸透していない中、一時停止して後方確認すること、また補助対策として、ミラーを用いて後方確認して欲しいと考えている。

（2）実施内容

- ・高齢者が自転車で訪れるゲートボール場、スーパー等に、市の職員（交通指導員）と警察署の署員（交通課署員、移動交番担当者等）が出向き交通安全のチラシと自転車後方確認用ミラーを配布し手織りその場で装着している。その際単に装着するだけでなく、口頭でも後方の安全確認を呼び掛けている。
- ・交通安全ゲートボール大会を実施し、市の職員、警察署の署員、交通安全協会の協会員が参加し、一緒にゲートボールをプレイした後に、後方確認用のミラーを配布・装着した。なお、ゲートボール大会では、日々の安全確認の定着のため、安全確認を実施することを特別ルールとして加えている。当初はあまり定着していなかったが、現在ではプレイ中に安全確認を怠った場合には、周りが注意するようになってきた。

（3）連携先機関

- ・ミラーを配布・装着する際には、市の職員（交通指導員）と警察署の署員（交通課署員、移動交番担当者等）が 5～6 人一組となって市内を回っている。高齢者に口頭で呼びかけたり、ミラーが適切に機能するように角度調整を行ったりするので、複数の方が望ましい。
- ・交通安全ゲートボール大会でミラーの配布を行った際には、交通安全協会の協会員とも連携した。

連携先機関名	役割分担
警察署	・後方安全確認用ミラーの配布及び設置、口頭での後方確認の呼びかけ
柏交通安全協会	・後方安全確認用ミラーの配布及び設置、口頭での後方確認の呼びかけ（ゲートボール大会時）

(4) 事業体制

当該事業予算	69千円（ミラー99円×700個）
本事業担当職員数	2人

- ・24年度に700個を購入し、複数年度にわたって配布している。

2. 取組の成果・効果

(1) 実績

- ・平成24年度に700個のミラーを購入し配布している。
平成24年度：365個
平成25年度：300個
- ・この他、交通安全を呼び掛けるチラシ、千葉県から提供されたチラシ、反射材、交通安全マップ（ヒヤリ・ハットマップ等）、柏交通安全協会から提供された反射シール等も併せて配布している。

(2) 成果

- ・高齢者の交通事故が抑えられている。交通事故件数が減少しているわけではないが、他の地域に比べて、高齢者の交通死亡事故の割合は低い。
- ・自動車運転免許証を保有していない高齢者が交通法規を知る機会となり、交通安全の意識が高まった。
- ・交通安全ゲートボール大会時には、日々の安全確認の定着のため、安全確認を実施することを特別ルールとしている。当初はあまり定着していなかったが、現在ではプレイ中に安全確認を怠った場合には、周りが注意するなど意識が高くなってきている。
- ・スーパー等でミラーの配布・装着をしていると、高齢者が取組を友人にも紹介し、その場で友人を呼ぶケースもあった。
- ・市内の交通事故件数の推移は以下のとおり。

	平成24年	平成25年	平成26年
交通事故件数	1,511件	1,390件	1,471件
うち高齢者が関係した交通事故件数	402件	401件	453件

3. 取組における課題・留意点と工夫点

(1) 課題・留意点

- ・交通安全意識を高めるためにグッズや冊子等を作成しているが、高齢者のニーズを把握すること（キーホルダー等取り付ける際、細かいものは取り付けが難しい。）
- ・また、自宅にこもりがちな高齢者（独居の方など）への交通ルールの周知徹底が難しい。
- ・単位老人クラブ等に出向いて高齢者向けの交通安全教室を開催しているが、交通安全教

室を実施する老人クラブの固定化，また老人クラブに加入する高齢者が少ないこと等、交通安全教室申請のない老人クラブを開拓することが難しい。

- ・ 自転車後方確認ミラーは，とても好評であるが，取り付けに手間がかかる。特に女性は自分だけでは取り付けられないとの声もあり，ミラーを配布しても実際に自転車に取り付けているか不安である。自転車に乗って来た方には，実際にその場で取り付けられているが自転車に乗って来ない方への取り付けが課題である。

（２）取組における工夫点

- ・ 取り付けが難しいと言う声を受け，その場で，市の職員や警察署の署員が直接自転車にミラーを装着するようにしている。適切に後方が見えるようにするため，細かなミラーの角度調整等が必要となる。
- ・ 高齢者と関わりのある地域包括センター等と連携している。同センター等でも，交通安全のチラシを配布してもらうようにしている。
- ・ 警察署に交通安全を呼び掛けるスタンプを作成してもらっている。市から高齢者に送付する書類には，このスタンプを押して，しつこく交通安全を訴えている。

（３）今後の課題・展望

- ・ 高齢者の交通安全意識の向上
- ・ 交通安全教室未実施クラブ，老人クラブ未加入者への交通安全教室の実施。
老人クラブ未加入者に対しては，高齢者との接点が多い民生委員に交通安全アドバイスカードを配布し，民生委員からアドバイスカードに沿って交通安全の声掛け指導をしてもらっている。
- ・ 自動車運転中の事故防止として運転免許証自主返納制度を理解し，いかに定着するかが今後の課題であると考えている。自主返納した高齢者の中には自動車の代替交通として自転車の利用があるがどの様にしたら安全に利用してもらえるか，私達が今後何を支援していったら良いのか色々と模索が必要になってくる。

※運転免許証自主返納支援として市民課で身分証明書として利用可能な住民基本台帳カード（１０年間有効）を無料交付，交通施設課では免許を返納し車から自転車へ移行して貰えるよう市営駐輪場の回数券を配布すること等を検討している。

4. 取組の状況

後方確認用ミラーの配布・装着



アドバイスカード



ゲートボール大会での安全確認

高齢「歩行者」の交通事故の特徴

- ① 自宅から500m以内で事故が起きます。
～【近所だからといって油断しない。】～
- ② 「訪問」、「散歩」、「買い物」の際に事故が起きます。
～【通り慣れた道でも油断しない。車の直前直後は絶対に確認しない。】～
- ③ 道路を横断するとき、反対側車線（横断の後半）にはわかれていません。
～【しっかりと安全確認を習慣付け、特に確認横断の後半に十分気を付けよう。】～
- ④ 横断歩道のないところでの横断で事故が起きます。
～【道端でも横断歩道や信号機のあるところを確認しよう。】～
- ⑤ 薄暮時間帯・夜間に多く事故が起きます。
～【目元はなるべく目につませ、夕方から夜間にかけての外出は控えよう。】～
～【夕方、夜間に外出する時は、明るい服装や反射材を身につけよう。】～

夕日・夜間からの横断できる距離

交通安全アドバイスカード 柏市・柏警察署

- 1 横断歩道や歩道橋を渡りましょう。
近くに横断歩道がない場所では道路の幅が広く見渡せる場所を選び左右の安全確認をして道路に付して直角に渡りましょう。
（斜め横断禁止）
- 2 信号を守りましょう。
青信号が点滅していたり渡りきれない場合は、次の青信号まで待ちましょう。信号が青に変わって必ず左右を確認するのではなく、必ず左右の安全確認してから渡りましょう。
- 3 一時停止の標識のある場所では、必ず止まって安全を確認しましょう。
見通しの悪い交差点や信号機から出る直前など、必ず止まって安全を確認しましょう。
- 4 夜間から外出する時は、明るい色の服を着用し反射材を身につけましょう。
出来るだけ衝突のある明るい場所を選んで歩きましょう。明るい服装や「反射材」をつけ運転者から早く発見してもらいましょう。

安全とは 見る事 見られる事・・・自分の目で危険はないか注意深く見ましょう！！

出典) 柏市提供資料

<柏市交通安全ゲートボール大会 特別規則の内容>

安全確認地点（スタートエリア）

A スタートベルト着発地点に整列

B 番号を呼ばれたら、B 安全確認地点に移動し指差す方向に顔を向けて「右よし、左よし、右よし」と右・左・右の安全を確認後、「安全確認よし」と声に出して打撃を開始する。

A' シートベルトの代わりにベストを着る

※ スタート打撃開始前必ず次の動作を実施して下さい。
A' スタートベルトの名称
飛球開始時の位置に整列する前に、必ずシートベルト（ベスト：当量が確固）を装着して下さい。
B 安全の確認
番号を呼ばれたら、スタートエリアに入る前に、右・左・右を安全確認して下さい（安全確認をする方向を指差しその方向に顔を向けて「右よし・左よし・右よし」と声を出して下さい）。
安全確認が終わったら「安全確認よし」と声に出してスタートエリアに入り打撃をして下さい。

市町村人口 (平成 27 年 2 月 1 日)	交通事故死者数		
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
408,936 人	8 人	5 人	6 人
	うち高齢者数 2 人	うち高齢者数 4 人	うち高齢者数 1 人

【本件問い合わせ先】

千葉県柏市
土木部 交通施設課
04-7167-1304

【事例 13】「お達者訪問大作戦」（埼玉県）

独居高齢者とのネットワークを持つ民生委員等と連携し、高齢者への訪問・意識啓発を実施

1. 取組内容**（1）取組の背景と目的**

- ・埼玉県では、交通事故死者数のうち約4割を高齢者が占める。そのため高齢者を対象に各種交通安全啓発活動を行っている。しかし、老人クラブや自治会など地域活動に積極的な高齢者を除き、一人暮らしの高齢者に対する啓発活動は実施困難である。
- ・そこで、一人暮らしの高齢者宅を訪問するノウハウのある民生委員や、地域に根差した活動を行っている交通安全母の会が高齢者宅を訪問し、交通安全に対する注意喚起を行うチラシや啓発品の配布を行うことで、交通安全教育を受ける機会の少ない高齢者に、交通安全意識を持ってもらうことを目的として、「お達者訪問大作戦」を平成20年度に事業化した。

（2）実施内容

- ・県内約80万世帯ある高齢者の家庭を訪問し、交通安全や防犯の意識向上を目的とする「お達者訪問大作戦」を実施している。平成20年に、埼玉県、埼玉県民生委員・児童委員協議会、さいたま市民生委員・児童委員協議会の3者で協定を締結し、「お達者訪問大作戦」において連携することになった。
- ・訪問時に配布するチラシや啓発品は、埼玉県で作成し、各民生委員には市町村の民生委員担当課、母の会会員には市町村の交通安全対策担当課を通じ、それぞれ配布している。
- ・年度末には民生委員や母の会会員の訪問実績をとりまとめ、集計を行う。民生委員の訪問実績のとりまとめは市町村の民生委員担当課が、交通安全母の会の訪問実績は市町村の交通安全等担当課が担っており、毎月の集計結果をまとめて1年ごとに県に報告することになっている。
- ・訪問の際には、チラシを配布するとともに、簡単にその内容を民生委員等が説明している（1～2分程度）。啓発品は、反射材（キーホルダー、ステッカー）等であるが、年度によって異なる。

（3）連携先機関

- ・埼玉県、埼玉県民生委員・児童委員協議会、さいたま市民生委員・児童委員協議会の3者で協定を締結し、本事業において連携している。また特に協定を締結しているわけではないが、埼玉県交通安全母の会連合会を通じ、各市町村母の会会員にも高齢者宅への訪問を依頼し、連携している。

携先機関名	役割分担
民生委員・児童委員協議会	・主に一人暮らしの高齢者宅への訪問を実施している。
交通安全母の会	・高齢者宅への訪問を実施している。
市町村	・民生委員や交通安全母の会会員の高齢者世帯訪問実施回数の管理・記録及び県への報告を行っている。
トラック協会	・交通安全対策の費用を補助している。啓発品にも同協会の名前を記載している。

(4) 事業体制

当該事業予算	97万円
本事業担当職員数	1人

2. 取組の成果・効果

(1) 実績

・「お達者訪問大作戦」事業による高齢者世帯訪問数は、以下の通りである。ただし、以下は年度別延べ訪問世帯数である。

平成21年度：445,558世帯

平成22年度：511,758世帯

平成23年度：649,323世帯

平成24年度：821,473世帯

平成25年度：812,331世帯

(2) 成果

・交通事故が減少した。平成25年中の交通事故死者数が、前年に比べて20人減少した（H24：200人→H25：180人）。高齢者の交通事故死者数も、同様に18人減少した（H24：96人→H25：78人）。

・また「お達者訪問大作戦」事業を通じて、高齢者の交通安全に対する意識が高まり、事業を開始した平成20年と比べ、県内高齢者死者数は20人の減少となった（平成26年）。

・なお、県内の交通事故件数の推移は以下のとおり。

	平成24年	平成25年	平成26年
交通事故件数	35,600件	33,280件	30,821件
うち高齢者が関係した交通事故件数	5,637件	5,552件	5,658件

3. 取組における課題・留意点と工夫点

(1) 課題・留意点

- ・自宅にこもりがちな高齢者（独居の方など）への周知徹底が難しい。
- ・各市町村担当課を通じ、民生委員・母の会との調整、実施回数とりまとめを依頼しているため、各市町村との連携が必須である。
- ・この他にも、必要な予算を十分に確保できない、成果の適正な評価が困難といった課題がある。